分　科　会	中（歴史②）	都　市　名	岡　崎
提　案　者	岡崎市立竜南中学校		吉　田　修　梧

1　研究テーマ

社会的な見方や考え方を働かせ，仲間とともに
よりよい社会づくりに向けた新しい価値観に気付く社会科の授業
～２年社会科「どうする岡崎藩！戊辰戦争における岡崎藩主本多忠民の決断を考える」の実践を通して～

2　主題設定の理由

本校では，「教科の見方や考え方を働かせた深い学びの構築―生徒に学びをゆだねた授業（=NEO 竜南スタイル）を通して―」をテーマに掲げて授業研究を進めている。その中で課題として挙げられたのは，「生徒の思いや考えを中心に授業を展開すること」である。そのためには，従来の一斉・教師中心の授業から脱却し，生徒の思考の流れに沿った学びを展開することが重要だと考えている。また，今年度の岡崎市現職研修委員会社会部の重点目標として「社会的な見方や考え方を働かせ，仲間とともによりよい社会づくりに向けた新しい価値観に気付く姿の実現」が求められている。本校の課題と重点目標を踏まえ，社会科の授業において生徒に学びをゆだね，仲間とかかわることで新しい価値観に気付くことができる授業を展開する必要があると考えた。これからの社会を生きていく生徒たちに，課題解決に向けて主体的に取り組む力や，思考・判断したことをもとに議論し，価値判断する力を養うことができると考える。

幕末期の岡崎に本多忠民という人物がいた。家康の生まれ故郷である岡崎が，新政府側につくという大きな政治的決断を下した人物である。岡崎学習を通して家康についての認識が深まっている生徒にとって，認識のずれを孕む忠民の政治的決断は，生徒の追究意欲を高める教材となり，また，地域の人物や歴史事象に着目しながら当時の社会情勢を大観できる教材にもなると考えた。生徒の思考の流れに沿った学習課題を設定し，当時の国内外の情勢と忠民の政治的決断とを関連付ける調査・追究活動を行うことができれば，郷土の歴史から欧米の進出と日本の開国に関する歴史を大観し，社会的な見方や考え方を働かせながら幕末期の社会情勢について多面的・多角的に思考する生徒を育成できると考えた。

2　研究テーマのとらえ

社会的な見方や考え方を働かせ

「社会的な見方や考え方を働かせ」とは，社会的事象を位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係に着目することで，それぞれに問いを設定して比較・分類したり，総合したり，地域の人々や市民生活，自分の生活と関連づけることと考える。

仲間とともに

「仲間」とは，共に学び合う学級の子どもだけでなく，学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。「ともに」とは，追究において，級友とともに様々な人・もの・ことと関わりながら考えを認め，高め合う場を重ねていくことで，共同してより高い次元の学びへと導くことと考える。

よりよい社会づくり

「よりよい社会」とは，そこにかかわる人にとって幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。そのような社会をつくるとは，目の前やこれから起こりうる問題を解決するために，様々な方法で追究し，仲間と互いに共同する中で，自分の考えを深め，問題の解決に迫ることと考える。

新しい価値観に気付く

「価値観」とは，何に価値があると判断するかに関する考え方と捉える。よりよい社会を主体的に形成していくために，自分の考えと仲間の考えを照らし合わせた子どもが，互いの考えの共通点や異なる点を比較・検討する中で，自分だけでは気付くことができなかったこれまでにはない自分の考えを自覚する姿を，「新しい価値観に気付く」姿と考える。

2　めざす生徒像

① 岡崎藩主本多忠民の政治的決断について追究することで，幕末期における社会情勢を捉えることができる生徒。（知識及び技能）

② 仲間とのかかわり合いを通して，多面的・多角的な視点から岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について考え，為政者の政治的決断に関する価値認識を深められる生徒。（思考力，判断力，表現力等）

③ 岡崎藩主本多忠民の政治的決断の理由について疑問を抱き，その問題解決のための追究活動に主体的に取り組もうとする生徒。（学びに向かう力，人間性等）

3　研究の仮説と手立て

【仮説１】　生徒にとって認識のずれが生じる地域教材を取り上げ，生徒の思考の流れに沿った学習課題を設定すれば，生徒は追究意欲を高めて主体的に学びに取り組み，幕末期における社会情勢を捉えることができるだろう。

〈仮説１に対する手立て〉

①戊辰戦争における岡崎藩主本多忠民の政治的決断という地域教材を取り上げる。

岡崎藩主本多忠民が，戊辰戦争で新政府側につく決断をした理由という生徒にとって認識のずれが生じる地域教材を提示し，追究することで，幕末期における社会情勢を捉えられるようにする。以下手立て①

②生徒の思考の流れに沿った学習課題を設定し，単元を構成する。

授業の振り返りを活用し，生徒の疑問や思考の変容に合わせて学習課題を設定したり，単元を構成したりすることで，生徒が追究意欲を高めて主体的に学びに取り組むことができるようにする。以下手立て②

【仮説２】　社会的な見方や考え方を働かせて，多面的・多角的な視点を獲得できるよう適切な支援を行えば，生徒は新しい価値観に気付き，為政者の政治的決断に関する価値認識を深めることができるだろう。

〈仮説２に対する手立て〉

③追究したことを全体で共有，議論する場を設定する。

授業で多くの時間をともに学ぶ４人の小集団（以下：チーム）での学びを学級全体で共有，議論する場を設定し，仲間の多様な考え方に触れることで，多面的・多角的な視点から岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について考え，為政者の願いや自分との関わりといった新しい価値観に気付くことができるようにする。以下手立て③

④社会的な見方や考え方を働かせるよう教師の出を工夫する。

生徒の思いや考えを見取り，社会的な見方や考え方を働かせるような教師の出を工夫することで，多面的・多角的な視点から岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について，新しい価値観に基づいて価値認識を深められるようにする。以下手立て④

４　単元の目標と単元構想

①　岡崎藩主本多忠民が直面した戊辰戦争時の政治的決断を追究する中で，幕府政治の行き詰まりや欧米列強のアジア進出により生み出された，明治維新の動きを理解することができる。　（知識及び技能）

②　岡崎藩主忠民の政治的判断を追究する中で，忠民の決断と国内外の情勢を関連付けて考え，忠民の政治的決断を多面的・多角的な考察をもとに価値判断することができる。　（思考力，判断力，表現力等）

③　岡崎藩主本多忠民の政治的決断を追究する中で生まれた疑問や課題を解決するために，仲間と協力しながら粘り強く追究しようとする。　（学びに向かう力，人間性等）

時	「学習課題」　◆学習内容　○生徒の思考　・資料	教師の出
1	「戊辰戦争勃発！岡崎藩は新政府と旧幕府のどちらの側についたのだろうか」 ◆戊辰戦争勃発の背景と経緯，忠民の政治的決断に出会う。 ○家康の生まれ故郷である岡崎藩において，なぜ忠民は新政府側につくと決めたのだろう。 ・岡崎藩主本多忠民　・戊辰戦争勃発の流れ	「岡崎藩は，新政府側と旧幕府側のどちらにつくと思うか」 「忠民はなぜ新政府側についたのか」
単元を貫く学習課題 「忠民はなぜ新政府側につく決断をしたのだろうか」		
4	「忠民が新政府側につく決断をした理由について調べよう」 ◆決断の理由を予想し，チームで追究活動を行う。 【外国】◆アヘン戦争勃発　◆インド大反乱勃発の背景と経緯とその影響 ○欧米諸国は貿易のためだけでなく，アジアを植民地支配しようとしていた。欧米諸国がアジアを侵略していたことを忠民はなぜ知っていたのかな。 ・資料（欧米のアジア侵略）	「欧米諸国はアジアにどんな影響を与えたのか」 「忠民はなぜこの状況を知っていたのか」
	「忠民が新政府側につく決断をした理由について調べよう」 ◆決断の理由を予想し，チームで追究活動を行う。 【国内】◆ペリー来航の経緯と影響 ◆開国の経済的影響と幕府への批判の高まり ○開国によって国内の経済状況は悪くなっている。人々の生活も苦しくなり，幕府の影響力も低下している。この状況を忠民はなぜ知っていたのかな。 ・資料（開国とその影響）	「開国によって国内はどのような状況になったのか」 「忠民はなぜこの状況を知っていたのか」
	「忠民が新政府側につく決断をした理由について調べよう」 ◆決断の理由を予想し，チームで追究活動を行う。 【本多忠民・岡崎藩】◆岡崎藩の状況　◆岡崎藩主本多忠民の人物像 ○忠民は京都所司代や老中を務めた。この経験を生かして，新政府側につく決断をしたのかもしれない。 ・「本多忠民」激動の幕末期を生き抜いた藩主　・「岡崎藩」戊辰戦争直前の様子	「当時の岡崎藩はどのような状況だったと言えるか」 「忠民とはどのような人物だったのか」
1	「忠民はなぜ新政府側につく決断をしたのだろうか」 ◆政治的決断の理由を学級で話し合う。 【外国】○欧米諸国のアジア侵略が大きな影響を与えた。不平等条約の締結などアジア諸国と同じように植民地支配されてしまう。 【国内】○物価の上昇，財政状況の改善について失敗している。批判する人たちを処罰し，さらに反感を買ってしまった。幕府の権力は低下している。 【本多忠民・岡崎藩】○幕府の要職を経験している。○岡崎藩の苦しい生活を知っている。 ○国内外の状況を江戸の要職を経験していたために知っていたこと，藩の苦しい生活を知っていたことが，新政府側につく決断につながった。 ○岡崎藩がその後どうなったのか気になるな。	「欧米諸国はアジアに何の目的でやってきたのか」 「なぜ物価は上昇したのか」 「不平等条約というなら締結を断れなかったのか」 「忠民は国内外の状況を知っていたのか，またそれはなぜか」 「岡崎藩の人々は幕府にどのようなことを思っていたのか」
1	「岡崎藩はその後どうなっていったのだろうか」 ◆戊辰戦争後の岡崎藩について追究活動を行う。 ○新政府側につく決断をしたけれど，岡崎はその後も苦しい生活を送っている。忠民の決断には意味があったのかな。 ・戊辰戦争後の岡崎藩　　・鳥羽伏見の戦いから五稜郭の戦いまで	「岡崎藩のその後を知って，どう思ったか」 「本当に新政府側についてよかったと言えるのか」
1	「忠民の決断には意味があったのだろうか」 ◆忠民の決断の意味について追究活動，発表を行う。	「何を伝えたら岡崎藩士を説得できると考えるか」

	○忠民にとっては，徳川家への忠義を大切にしながらも，日本の近代化や世界の変化に気付いて未来に岡崎を残すことができた。 ○でも忠民の決断に反対した人もたくさんいる。 ○何を伝えたら岡崎藩士を説得できるだろうか。	
1	「何を伝えたら，岡崎藩士を説得できるだろうか」 ◆岡崎藩士を忠民の立場に立って説得する理由を考え，発表する。 ○今の幕府では清やインドのように欧米諸国の植民地にされてしまう。 ○桜田門外の変などで幕府の権威は落ちていて，新政府軍には勝てない。 ○岡崎藩の人々が苦しい生活をしているし，世直しを期待している。新政府軍について新しい体制に期待しよう。 ○岡崎にかつてこんな人がいたということを誰かに伝えたい。今後も学んでいきたい。 ・明治時代における岡崎の学校教育　・連尺小学校にある允文館の松 ・「小柳津要」脱藩して旧幕府側について戦った人物について ・読み物資料（明治からみた岡崎）・明治時代における岡崎の学校教育について	「この理由で本当に説得できるだろうか」 「最も需要だと思う説得理由は何か」 「脱藩者を出してまで新政府側につくと決断した忠民は，何を願っていたのか」

５　抽出生徒の実態

【生徒Ａ】　学校生活に前向きに取り組むことができ，学級の中心的役割を果たしている生徒である。チーム学習における学びの中では自らの考えを発信する姿が見られる。しかし，他人の意見を傾聴し，自身の考えに取り入れることや為政者の思いを捉えることを苦手としている生徒である。そこで，岡崎藩主本多忠民の政治的決断について仲間とともに追究，議論の場を設定することで，生徒Ａが仲間の意見を取り入れ，これまでにない新しい考えに気付くことができると考えた。また，適切な教師の出によって，岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について，真剣に考える姿勢の醸成が期待できると考えた。
【生徒Ｂ】　明るく活発な生徒で，チームでの学びでは他者の意見を聞きながら円滑に取り組むことができている。しかし，歴史学習を暗記と考えているため，歴史の流れを理解することや自分事として捉えることを苦手としている生徒である。そこで生徒Ｂのチームにおいて仲間とかかわりをもつことができる良さを生かし，仲間と相談しながら追究活動を行い，生徒Ｂの追究意欲を高めて主体的に学びに取り組み，幕末期の社会情勢を捉えることができると考えた。また，適切な教師の出によって，岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について新しい価値観に基づいて考えようとする態度を養うことができると考えた。

６　実践と考察

（１）【戊辰戦争勃発！岡崎藩は新政府と旧幕府のどちらの側についたのだろうか】

第一時では，前単元の振り返りから始め，生徒たちは「幕府が財政難に苦しんでいた」「江戸時代の終わりが見えてきた」などの発言があった。そこで教師は，日本国内で起きた最大の内戦と言われる戊辰戦争を紹介し，どのような戦いであったかチームで追究活動を行っていった。すべてのチームが戊辰戦争勃発の背景と経緯を捉えたところで，教師は「岡崎藩は新政府と旧幕府のどちらの側につくと思いますか」と発問した。すると，生徒たちは口々に新政府側，旧幕府側だと話し始めたので，岡崎藩はどちらにつくか予想し，理由を記述することにした。その結果，新政府側１４人，旧幕府側２０人という結果となった。ここで生徒の認識のずれを生じさせるために，教師が岡崎藩主本多忠民について紹介して，新政府側につく決断をしたことを伝えた手立て①。生徒たちは，「え，なんで？」「家康の故郷が裏切った」などとつぶやいた。新政府側につくと予想した生徒たちも「理由まではわからない」「予想は合っていたけれど，意外な決断だった」とつぶやいた。そこで教師はそのつぶやきを全体で共有し，「この事実を知って，今何が気になるかな」と発問した。生徒たちは「本多忠民がなぜ新政府側についたのかわからない」と話し始めた。その後書いた本時の感想から，生徒Ａ，生徒Ｂの感想を紹介し，単元を貫く学習課題「忠民はなぜ新政府側につく決断をしたのだろうか」を設定して授業を終えた手立て②。【資料１】は抽出生徒の感想である。

【資料１】第一時の感想
[生徒Ａ]戊辰戦争が起きたところから，薩長同盟や大政奉還などと絡めて考えていく中で，戊辰戦争には開国などが関係していることがわかりました。予想通り，岡崎藩は新政府側についたけれど，それは雄藩の出現や西洋の新装備といった力の差が大きいことがわかりました。でも新政府側につく理由としてははっきりしていないし，なぜ岡崎は新政府側についたのかとても疑問に思っているので，そこを追究していきたいです。
[生徒Ｂ]戊辰戦争が起こるまでに薩長同盟や幕府の弱体化，大政奉還が起きたことがわかりました。徳川慶喜は政権を返して江戸幕府はなくなったけど，旧幕府軍の方が人数も多くて最初は勝ちそうだったのに負けてしまったのが不思議だった，なぜ岡崎藩が新政府側についたのか，旧幕府軍の方が人数が多かったのに新政府軍が勝てた理由がわからないので，詳しく調べてみたい。

【資料１】の下線部から，戊辰戦争が起きた背景を捉えつつ，忠民の政治的決断について追究意欲が高まっていることがわかる。教師の発問「この事実を知って，今何が気になるかな」によって「なぜ新政府側についたのかわからない」という疑問が生まれている。

（２）【忠民が新政府側につく決断をした理由について調べよう】

第一時，多くの生徒が，忠民が新政府側についた理由がわからないとの疑問をもった感想を書いていたため，その理由を追究する時間を第二時から第五時で設定した。まず，追究の見通しをもてるようにするために，「何を調べたらいいと思いますか」と発問した。生徒たちの意見をまとめ，「外国の状況」「国内の状況」「本多忠民・岡崎藩」の視点で追究を行っていくこととなった。それぞれの視点を追究する順番は自由とし，チームごとに気になる視点を決めて追究活動を行うようにした。これにより，生徒Ａのチームではどの視点から調べるか相談し，もっともよくわかっていないと結論付けた「外国の状況」から調べることにした。【資料２】は生徒Ａのチームの授業記録である。

【資料２】第二時の授業記録
Ｃ１　でもなんで水野忠邦は外国の状況知ってたの？
生徒Ａ　日本に外国船がたくさんやってきたことあったよね。これで幕府は外国と繋がってたからじゃないかな。
Ｃ２　イギリスとも貿易してたんだ。だからわかってたのか。
生徒Ａ　その結果，外国に有利な状況が生まれて旧幕府の権力が弱まった。それを知って勢いのある新政府側についたんだよ。
Ｔ１　そのことを忠民も知ってたの？
生徒Ａ　忠民は、知ってたのかな。わからない。
Ｃ３　忠民って何者なの。調べてみないとわかんないね。
Ｃ４　でもさ，日本に不利な状況が生まれたかよくわかんないし，そっちから調べようよ。
生徒Ａ　そうだね。国内のこと調べた後に，忠民が何者なのか調べてみよう。

【資料２】Ｔ１の「そのことを忠民も知ってたの？」という発問により，生徒Ａは「忠民が外国の状況をどのようにして知ることができたのか」という疑問を持つようになった。チーム内の会話ではその疑問を共有する姿が見られた。また，生徒Ａの「国内のことを調べた後に・・・」という発言からわかるように，意欲的に追究するだけでなく，仲間とともに考えた疑問に対して責任をもって追究しようという主体的な姿勢が見られた。よって主体的に学びに取り組もうとする姿が見られたと言える。また，生徒Ａが仲間との関わりを通して，自身の考えを伝えるだけでなく，仲間の意見に傾聴する姿が見られた。【資料３】は第二時の感想である。

【資料３】第二時の感想
［生徒Ａ］ 外国では産業革命を達成して強大な力を持ったあと，三角貿易から起きたアヘン戦争に勝ったイギリスが世界的に強い国になった。兄貴のような存在の清が植民地支配されてしまっていることも，日本だけでなくアジア全体に大きな影響を与えていると思う。でもなぜ忠民はこの状況を知れたのか気になる。
［生徒Ｂ］ アヘン戦争によってイギリスは清に進出し，植民地化した。そんなイギリスと南京条約という不平等条約を結んでしまったので，清にとってとても不利な状況になってしまった。外国が強くなってきて，日本も清のように植民地支配されてしまうかもしれないと思った。岡崎藩と直接かかわっている外国があるのか気になった。

【資料３】下線部より，生徒Ａ，Ｂともに外国の状況を「欧米諸国によるアジア侵略が始まった」という視点で捉えることができており，当時の社会情勢を捉えられている。生徒Ａの「でもなぜ忠民はこの状況を知れたのか気になる」という発言から，忠民が新政府側についた理由を考えるためにはまだわからないことがあり，それをさらに追究しようとする姿勢も見られる。授業の終末に，次回第三時で追究したいことを話し合い，生徒Ａ，Ｂともに国内の状況を追究することとなった。【資料４】は第三時の授業感想である。

【資料４】第三時の感想
［生徒Ａ］ 幕末には雄藩が栄え，幕府よりも優れた軍事力をもつ藩が現れた。国内の物価高による混乱が重なり，幕府の権威はどんどん下がっていった。雄藩は西洋式の軍備を整えていたため，欧米諸国がアジアを植民地化していたのを見て，日本も支配されることを恐れた。薩摩藩のようにイギリスと戦争した結果，勝つことよりも貿易する方がメリットがあると考えた藩が，ほかにもあったのかもしれない。アメリカなどと不平等条約を結ぶしかなかったことからも幕府には限界が来ている。つまり，この状況を見抜いていたら，新政府側につく決断をしてもおかしくない。この状況を見抜いていた忠民とはどんな人物なのか。
［生徒Ｂ］ 今日の授業を通して，開国によって幕府の力が弱まり，逆に力をつけた雄藩が新政府側だったため，新政府側についたと思います。開国することで国内の金が外国に出ていってしまい，貿易をすればするほど幕府は力を失っていっている気がしました。桜田門外の変で井伊直弼が暗殺されて，幕府の重要な人物が殺されるのは国内の混乱を表していると思いました。外国の状況も国内の状況も調べ終わったので，次の授業ではいよいよ本多忠民のことを調べて，なぜ新政府側についたのか調べたいです。

【資料４】下線部からわかるように，生徒Ａ，Ｂともに開国によって幕府政治の行き詰まってきていることを捉えることができている。また，忠民の決断の理由についても，生徒Ａは軍事，政治の面から考えることができており，生徒Ｂも政治，経済の面から考えることができている。忠民の決断の理由を追究することによって国内外の状況を多面的・多角的に捉えられていることがわかる。そして，忠民の決断の理由だけでなく，忠民に対する追究意欲も高まっていることがわかる。第四時では生徒Ａ，Ｂともに本多忠民と戊辰戦争直前の岡崎藩の状況に関する資料を中心に追究活動を行った。【資料５】は第三時の授業記録である。

【資料５】第三時の授業記録
Ｔ２　忠民はどんな人だったかな。
生徒Ａ　京都所司代をやったり，老中を２回やったり，幕府の重要人物だった。あと岡崎藩の藩主。
Ｃ５　けっこうすごい人だってわかった。
Ｃ６　でもだからって新政府側につく決断になるかって言われるとまだわからないんだよな。
Ｔ３　忠民は外国と関わりもってたのかな。【手だて⑤】
Ｃ７　京都所司代のときに日米修好通商条約の交渉をやってる。
生徒Ａ　だから外国の状況を知ってたんだ。老中もやってるし，わかってたってことだ。
Ｔ４　外国の状況って何のことですか。　（生徒Aは第二時，第三時のまとめをタブレットで探し始める）
Ｃ８　イギリスが清をアヘン戦争で倒して植民地化してることと、不平等条約結んだこととかかな。
生徒Ａ　これ見て。前に外国の状況を調べたときに，アヘン戦争で清が負けたよね。その後，水野忠邦が異国船打払い令を廃止したよね。これを老中やってたから知ってたんだ。幕府が弱体化していたことも老中をやっていたからわかってたんだ。だから新政府側についたのか。

【資料５】下線部Ｔ３の「忠民は外国との関わりをもってたのかな」という発問により，生徒Ａの「だから海外の状況を知ってたんだ・・・」の発言を引き出しており，国外の状況を忠民の政治的決断に関連付けて考えることができるようになったことがわかる。また，生徒Ａの「これ見て・・・」の発言から，国内の状況も関連付けることができている。これにより，【資料３】第二時の「忠民が外国の状況をどのようにして知ることができたのか」，【資料４】第三時の「この状況を見抜いていた忠民とはどんな人物なのか」という疑問を解決することができている。このことから，生徒Ａはチーム内での関わりを通して疑問に思ったことを主体的に調べ，解決することができたといえる。【資料６】は生徒Ｂのチームの授業記録である。

【資料６】第三時の授業記録
Ｔ３　ほかのチームで忠民は老中やってたから国内の状況がわかってたんじゃないかって話が出ていたよ。
Ｃ９　なるほど。だから新政府側についたのか。
生徒Ｂ　なんでそうなるの。
Ｃ10　幕府の弱体化とか，老中やってたからそういうの知ってたんだよ。
生徒Ｂ　なるほどね。だから新政府側についたのか。老中やるくらいだから優秀な人だったんだね。忠民が戻ってきたとき岡崎藩は物価が上がって大変だったみたいだしね。
Ｃ11　それもそうだし，岡崎藩には借金もかなりあったみたいだよ。苦しい状況だったから新政府側についたのかな。
生徒Ｂ　岡崎藩の苦しい状況って，物価の上昇がどれくらいだったのか調べてみようよ。

【資料６】下線部生徒Ｂの「なんでそうなるの」という疑問は，Ｔ３の発言によってチーム内の議論が広がり，その後の生徒Ｂは「岡崎藩の苦しい状況って物価の上昇がどれくらいだったのか・・・」と追究意欲を高めたことがわかる。また，岡崎藩の状況について疑問をもち，経済的な側面から忠民の政治的決断の理由を考察しようとしていることがわかる。その後，生徒Ｂは岡崎藩の物価について追究していった。【資料７】は第四時の感想である。

【資料７】第四時の感想
［生徒Ａ］ 旧幕府での京都所司代や老中といった重要な役職についていた忠民は，幕府の財政難を知っていた。外国の状況も京都所司代の経験でわかっていた。だから新政府側についてこれ以上財政難にならないようにしたのではないか。岡崎の財政難を打破するためには，欧米諸国と戦うのではなく，対等な貿易を行う必要があったのだと思う。岡崎藩はどうなってしまうのか。
［生徒Ｂ］ 岡崎藩は物価が３倍ほど上昇していたけど賃金は１．５倍ほどしか上がらず，苦しい生活をしていた。だから借金する人も増え，藤川宿でお札降りが始まった。農民も食べるものに困ったからええじゃないかといって世直しを期待していたことがわかりました。全部を通して外国との貿易で苦しくなった幕府，強くなっていった雄藩，苦しんでいる岡崎藩の人々のために新政府側についたんだと思いました。

【資料７】下線部からわかるように，生徒Ａは忠民を調べることで，国内外の状況と忠民の為政者としての経験を関連付けて，新政府側についた理由を考えることができている。また生徒Ｂは「全部を問置いて・・・」と書いてあることから，当時苦しい生活を送っていた人々に思いを寄せ，多角的な視点から忠民の決断の理由を考察することができている。その後，生徒Ａのチームは，外国との不平等な貿易によって江戸幕府や岡崎藩の財政難が進行したのではないかと予想を立て，生徒Ｂは岡崎藩の状況をより深く追究したいと言ったため，第五時は追究が足りていないことを調べる時間を設定した。【資料８】は生徒Ｂのチームの授業記録である。

【資料８】第五時の授業記録
Ｃ12　新政府側の方が有利だったのかな。西洋式の軍備がそろってるし。
Ｃ13　鳥羽伏見の戦いのときは旧幕府側の方が兵力は多かったけど，武器の差が大きかったんじゃない。
Ｔ４　仲間の数という視点は面白いね。新政府側についた藩はどれくらいあったのかな。【手だて⑤】
Ｃ14　薩摩藩と長州藩と，土佐藩とか。
Ｔ５　岡崎藩が新政府側についたとき，周りの藩はどうしたのかな。【手だて⑤】
生徒Ｂ　岡崎藩だけだったら周りから攻め込まれちゃう。周りの藩がどっちについたのかって，大事なことかも。

【資料８】下線部からわかるように，Ｔ５の「岡崎藩が新政府側に・・・」によって，生徒Ｂは岡崎藩以外の藩の動向について疑問を抱くようになった。その後，生徒Ｂのチームでは他藩の動向を調べることにし，新政府側についた藩は岡崎藩だけではなかったという事実に気付くことができた。【資料９】は第五時の感想である。

【資料９】第五時の感想
［生徒Ａ］ 外国との貿易は日本にとって不利だった。産業革命の高品質な品が大量に入り，関税自主権がないから日本の産業は苦しくなっていった。このままだと国がつぶれてしまう状況だったから，新政府側についた。忠民が新政府側についた理由をうまくまとめたい。
［生徒Ｂ］ 新政府側についた藩の方が多いことがわかった。外国のせいで財政難になったのが原因かも。新政府側についたのは岡崎藩だけじゃなかったことで，岡崎藩も新政府側につけたのだと思いました。

【資料９】下線部からわかるように，生徒Ａ，Ｂともに国内外の状況と，本多忠民，岡崎藩の状況を多面的に捉えることができている。多くの情報を整理するために，チームごとに追究した内容を全体で情報共有する時間を設定した。

（３）【忠民はなぜ新政府側につく決断をしたのだろうか】

第六時では，本多忠民はなぜ新政府側につく決断をしたのかという学習課題に迫るために，第五時までの追究内容を学級全体で共有する時間を設けた【手だて③】。決断の理由をまとめ，発表し，黒板に掲示した。第六時では決断の理由として【資料 10】のような意見が出た。

【資料 10】学級全体での話し合いで出た意見
外国の状況・産業革命に成功したイギリスが，アヘン戦争で清に勝った。・産業革命により，アジアの国々より進んだ文明をもつことになった。・清に勝利したことで，欧米がアジアの大国より強いことが明らかになり，日本は勝てない。・イギリスは清，インドを植民地化した。アジアの国々を植民地支配しようとしている。・イギリスから独立したアメリカが，貿易を求めて日本にやってくることになる。
国内の状況・ペリーが来航したことで開国し，井伊直弼が日米修好通商条約を結んだ。これは不平等条約だった。・産業革命していた欧米諸国に対して，日本は鎖国していたため，戦っても勝てないと悟った。・戊辰戦争が起こる前，尊王攘夷派と佐幕派による争いが激しくなっていた。・開国の影響で不平等な貿易が始まり，国内の金が流出して物価が上昇して生活が苦しくなっていた。・大老の井伊直弼が暗殺され，幕府の権威が衰えていた。・ええじゃないかなど人々の反乱を抑えることができておらず，幕府の力が低下していた。
本多忠民，岡崎藩の状況・１８歳で岡崎藩主となり，三河加茂一揆をおさめたことで水野忠邦に認められた。・京都所司代となり，日米修好通商条約を結ぶためにアメリカとの交渉を担当した。・井伊直弼が暗殺されると，老中となる。老中を辞める。長州征伐のあと，再び老中となる。・病気で老中を辞めた後は，岡崎藩に戻って財政難に対応する。・岡崎藩は物価が３．６倍になり，苦しい生活を送っていた。借金もたくさんあった。・藤川宿でお札が降り，ええじゃないかが起きた。・岡崎藩のまわりの藩は，多くが新政府側につく決断をしていた。尾張藩，紀伊藩など御三家も新政府側につく決断をしていた。

このような意見が出たことから，生徒たちが忠民の政治的決断を追究することで，幕末期の社会情勢を

捉えられていることがわかる。全体共有の後，多面的・多角的な視点から岡崎藩主本多忠民の政治的決断の意味について考え，新しい価値観に気付くことができるようにするため，そして生徒の疑問や思考の変容に合わせて学習課題を設定するために，授業のまとめとして忠民の決断の理由について発問をした。【資料 11】はそのときの授業記録である。

【資料 11】第六時の授業記録
Ｔ６　忠民の決断の理由についてのまとめを見て，新しく気付いたことはありますか。
生徒Ａ　岡崎藩のまわりの藩が新政府側についていたことは知らなかったです。逆にここまでくると幕府側についた藩がどうなっていったのか気になります。
Ｔ７　生徒Ｂのチームではそれについても調べられていますか。
生徒Ｂ　他の藩は転封と減封されていて，ほとんどは強制的に引っ越しさせられました。けど処刑されたわけではないそうです。つまり，幕府側についた藩は新政府から引っ越しと年俸の大幅な減額という罰を受けたそうです。
生徒Ａ　じゃあやっぱり新政府側につくのが正解だったということか。
Ｔ８　生徒Ｂは新しく気付いたことはありますか。
生徒Ｂ　「ええじゃないか」を防げないことが，幕府の力の低下に繋がっているってことをちゃんと理解できました。力のない幕府では外国の植民地支配から逃れられないので，岡崎藩を守るためにも新政府側についたのかなと思います。
Ｔ９　みんなはここまで学習してきて，今，何が気になりますか。【手だて②】
Ｃ15　戊辰戦争のその後が気になる。
Ｃ16　岡崎藩は戊辰戦争には勝つと思う。どんな戦いになっていくのか気になる。

【資料 11】下線部からわかるように，生徒Ａは，全体共有を通して岡崎藩以外の藩の動向という視点を獲得し，幕府側についた藩がどうなっていったのかという疑問を抱くようになった。そして生徒Ｂの発言によりその疑問が解消され，「じゃあやっぱり新政府につくのが正解だった」という発言に繋がった。このことから，生徒Ａは他者の意見を取り入れて，忠民が新政府側につく決断をした理由をより深めることができたとわかる。また，生徒Ｂは「ええじゃないか」という語句の意味を正確に理解できるようになったために，岡崎藩の苦しい生活について理解を深めることができた。そして，Ｔ９の「みんなはここまで学習してきて，今何が気になりますか」という発問により，生徒たちは新政府側につく決断をした後，どのような戦いになり，岡崎藩や日本のその後はどのようになっていくのかについて，疑問をもった。これにより，生徒の疑問や思考の変容に合わせて学習課題を設定することができた。【手だて②】。【資料 12】は，第六時の授業感想である。

【資料 12】第六時の感想
［生徒Ａ］　国内外，岡崎藩の状況を踏まえると，岡崎藩の財政難は，旧幕府が原因だと思った。なぜなら不平等条約や不利な貿易は旧幕府が行ったから。忠民は老中を経験しており，その現実を知っていたため，行動することができたのだと思う。だから岡崎藩を救おうという強い気持ちが，新政府につくという結論に至ったのだと思った。戊辰戦争のその後，幕府側についた藩が罰を受けていることから，新政府側についた忠民の決断は正しかったと思った。新政府側についた岡崎はどうなったのか追究していきたい。
［生徒Ｂ］　外国が日本よりも優れた技術を持っていたり，物価高などにより，国民が幕府の政策に不満を持っていたり，周りの藩が新政府側についたりしたから，日本や岡崎藩をまもるためにも忠民は新政府側についたんだと思いました。その後の国内の状況や外国との関わり，岡崎藩がどうなったのかなどを考えていきたいです。

【資料 12】下線部からわかるように，生徒Ａ，Ｂともに国内外の状況を捉えることができている。生徒Ａは「だから岡崎藩を救おうという・・・」と記述しているように，忠民が新政府側につく決断をした理由は，岡崎を守りたいという思いがあったからではないかと考えるようになった。しかし，何のため，誰のために岡崎藩を守るのか，という視点については思考を深める余地がある。生徒Ｂは，岡崎藩の財政難の原因は旧幕府側にあると捉えており，岡崎藩の苦しい生活と，ええじゃないかを関連付けて考えることができている。第六時において全体共有したことで新しい視点を獲得することができ，全体共有には価値があったと言える。また，生徒Ｂは「日本や岡崎藩を守るためにも・・・」という記述から，岡崎藩だけでなく日本を守るという考えをもつようになったことがわかる。しかし忠民の決断に反対する人たちが多くおり，その反対を押し切ってまで日本や岡崎藩を守ると決断したのかという視点については思考を深める余地がある。生徒Ａ，Ｂは岡崎を守りたいという忠民の政治的決断の意味に気付いるので，新政府側についたことを正しいと考えている思考にずれを生じさせれば，獲得した新しい価値観に基づいて決断の意味を考えることができると考えた。そして，生徒Ａ，Ｂともに，次に追究したいことを明確に記述しており，それらを紹介し，次の時間は，戊辰戦争の結末と，岡崎藩のその後について追究していくことにした。

（４）【岡崎藩はその後どうなっていったのだろうか】

第七時では教師自作資料【資料 13】を用いて戊辰戦争後の岡崎藩について追究活動を行った手だて④。調べてすぐに，生徒たちは「やっぱり新政府側が勝った」と話し始めたが，岡崎藩の戊辰戦争後の苦しい生活にたどり着いたチームは結局のところ新政府側についたことが正しかったとは言えないという思いを持つようになった。「廃藩置県により，岡崎藩という名称がなくなった」「忠民が東京に転居となった」「岡崎城取り壊しにより，忠民が建てた允文館（学校）もなくなった」など，様々なものがなくなったことを理由に，新政府側についた意味があったかについて疑問をもつようになった。【資料 14】は，生徒Ａ，Ｂの感想である。

忠直がイギリスに留学に行っている最中、新政府の方針で岡崎城は取り壊しとなる。「岡崎は家康の生まれ故郷であり、本多家ゆかりの譜代の土地。新政府の方針に反対されると困るため、取り壊しとする」という新政府の思惑があった。しかし、命令が出ても藩士たちやその他の士族たちは誰一人として動かず、新政府は仕方なく周辺の農民たちを動員して取り壊した。

藩主忠民は岡崎を去るしかなく、岡崎城もなくなった。戊辰戦争後の庶民の生活は苦しく、新政府によってもたらされた明治という時代は、江戸幕府を切り開いた家康の生まれ故郷岡崎にとって、苦しい始まりであったと言える。

【資料 13】教師自作資料「戊辰戦争後の岡崎藩について」

【資料 14】第七時の感想
［生徒Ａ］　允文館を建てていった忠民だが，廃藩置県に伴って，それらの藩校は壊されていった。さらに藩主，県庁がなくなって，岡崎城もなくなる。つらいままで結局新政府側について意味はあったのか。旧幕府についていたとしても給料が下がり，脱藩しても謹慎。どっちもどっちでつらいままの状況が続いている。旧幕府についても変わらなかった。結局，正解は？
［生徒Ｂ］　岡崎藩は新政府側についたことで，江戸幕府のころの生活の苦しさは変わってないし，むしろ戊辰戦争で岡崎藩はいろいろな場面でより苦しくなっていったなと思いました。でもひとつよかったのは，学問に力を入れようという忠民の考えで，それがあったから，今の岡崎に学校が多いことに繋がっているから，そこは悪くなかったんじゃないかなと思いました。

【資料 14】下線部からわかるように，生徒Ａは第六時で獲得した幕府側についた藩の処遇を基に，「旧幕府についても変わらなかった。結局正解は。」と考えた。生徒Ｂは戊辰戦争後の岡崎藩の状況について，「でもひとつよかったのは・・・」という新政府側につく決断をした理由に，教育に力を入れ，岡崎の近代化を進めようとした忠民の思いを捉えることができている。そこで生徒Ｂの捉えていること，生徒Ａの「意味はあったのか」という感想を全体共有することにした手だて③。【資料 15】は第七時の授業記録である。

【資料 15】第七時の授業記録
Ｔ10　岡崎藩のその後を知って，どう思いましたか。
生徒Ａ　允文館をせっかく建てたのに壊されたし，忠民は東京に引っ越しになるし，岡崎藩の生活は苦しいままだし，新政府側についても意味あったのかなって思いました。
Ｔ11　じゃあ旧幕府側についたほうがよかったのかな。
生徒Ａ　それはそれで苦しい生活は変わらないので，そういうわけじゃないです。
Ｔ12　みんなはどう思うかな。（教室全体がざわつく）
Ｔ13　意味あったのか，という疑問は，多くの人がもっていそうだね。Ｂさんはどう思いますか。
生徒Ｂ　私も生活の苦しさについてはどっちについていても変わらないかなって思います。けど，今の岡崎に学校がたくさんあるのは，允文館とかがあったおかげだと思います。
生徒Ａ　反乱の疑いかけられて苦しい生活は変わらなかったし，岡崎城も守れてなかったので，意味があったかと言われると判断が難しいです。

【資料 15】下線部生徒Ｂの意見について全体共有を行うことで，允文館が取り壊されたのちに，忠民の思いを引き継ぎ，岡崎にたくさんの学校が設立されたという情報を，学級全体で捉えることができた。しかし，生徒Ａはその意見を聞いた上で「意味があったかと言われると判断が難しい」と考えている。そのため，本多忠民や岡崎藩の状況について追究の時間を設定し，さらに忠民の決断の意味を考える時間を設定した。

（５）【忠民の決断には意味があったのだろうか】

第八時では「忠民の決断には意味があったのか」という学習課題を設定し，岡崎藩のその後の状況をさらに追究した後に，意味について話し合う時間を設けた。【資料 16】は追究，発表した内容である。

【資料 16】学級全体での話し合いで出た意見
なぜ忠民は新政府側につく決断をしたのかについてさらに追究した内容
①新政府側についたため，戊辰戦争に負けなかった。だから減封，転封されたりしなかった。
②允文館を建てたことで，その後の岡崎では名古屋に次いで学校建設の足掛かりをつくることができた。
③どちらについてもつらい状況だったことに変わりはない。しかし外国の状況に対応するためには新政府側についたほうがいい。
④新政府側についていなければ，新しい政府の仲間に入れてもらえないことがほとんどであった。
⑤学校の先生を育てる学校が名古屋に次いで作られたことから，忠民の決断は結果的に岡崎の学問の発展につながった。
忠民の決断には意味があったのか→あった：34 人（生徒Ａ，Ｂ含む）　なかった：１人→脱藩者にとっては意味がなかった。
忠民の決断は，誰にとって意味があったか・日本国内 ・岡崎藩の平民 ・今岡崎で生きている人たち ・今の自分たち ・忠民自身

①から⑤までの意見は，それぞれ政治，経済，歴史的な面から，忠民の決断の意味を考察することができており，国内外の状況を多面的・多角的に捉えて結論を導き出すことができている。さらに，「・・・学問の発展につながった」から，長期的な視点で考えることができている。そこで新しい価値観に基づいて忠民の決断について考えさせるために，意味がなかったと回答した生徒の意見に着目し，なぜ意味がなかったと考えるか問うと「脱藩者にとっては意味がなかった」と考えていることがわかった。ここから，学級全体に忠民の決断は誰にとって意味があったのか問いかけた手だて④。生徒たちは様々な立場を考え，その中に「今の私たち」という意見があったため，さらに今の私たちにとってどんな意味があったのかと問いかけた手だて④。【資料 17】は，第八時の授業感想である。

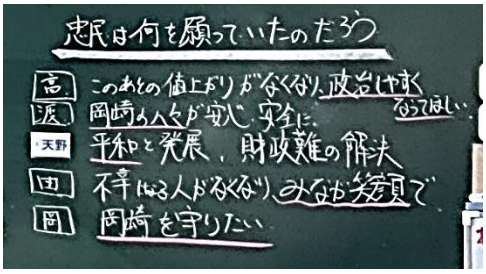
【資料 17】第八時の感想
［生徒Ａ］　戊辰戦争に勝ったことで岡崎藩は守られることになった。今の私たちが暮らす岡崎も，忠民の決断が旧幕府側につくことになっていたら，今の岡崎はなかったということになる。岡崎に師範学校（今の愛知教育大学）ができ，たくさんの学校が作られたことは，岡崎の発展を支えるものとなった。もし，旧幕府側について戦争していたら，日本は変わることがなく外国に支配されていたかもしれないし，どのみち旧幕府には限界がきていた。忠民が守りたかった岡崎のためにも，よい決断だった。
［生徒Ｂ］　今の私たちにとって，学校がたくさん作られたことは意味があったと思います。そのおかげでたくさんの小学校，中学校，高校が作られたので，教育は豊かになっていったのだと思います。今の私たちだけじゃなくて，戦争中の人たちにとっても岡崎藩がなくならなかったことはよかったんじゃなかなと思いました。

【資料 17】下線部生徒Ａの「今の私たちが暮らす岡崎も・・・」「どのみち幕府には限界がきていた」という記述と，生徒Ｂの「今の私たちにとって・・・」「戦争中の人たちにとっても・・・」という記述から，，多面的・多角的な視点から忠民の決断の意味を考察することができていることがわかる。学びや考えをより深めるため，授業の終わりに「戊辰戦争が起きたとき，あなたが岡崎藩主だったとして，何を伝えたら岡崎藩士を説得できると思いますか」と問いかけた手だて④。生徒は学びを振り返り，説得理由の理由を考え始めた。

（６）【何を伝えたら，岡崎藩士を説得できるだろうか】

第九時ではもっとも価値があると考える決断の理由を話し合うことにした。学習課題は「何を伝えたら，岡崎藩士を説得できるか」と設定した。説得理由を発表していく中で，理由ごとに分類でいきるよう意図的に板書した手だて④。生徒たちに板書を見て共通していることは何かを発問すると、「外国との関係・植民地支配」「国内の状況・幕府の力のなさ」「岡崎藩のこと」「周りの藩のこと」の４つに分類することができた。そこで，より多面的・多角的な視点から忠民の決断の意味を考察するために，自分が考える最も重要だと思う岡崎藩士への説得理由をチームで話し合い，順位づけを行うことにした手だて④。順位づけをした結果，「国内の状況・幕府の力のなさ」「岡崎藩のこと」を重要だとするチームが多くなった。これは岡崎藩のことについて追究活動を多く行ったことで，国内，岡崎藩の状況について理解が深まったためであると考える。生徒Ｂに順位づけの理由を問うと，「身近なことを伝えた方が，みんなの生活に関

わっていて危機感をもってもらえてわかりやすいし説明しやすい」と発言した。このことから，忠民が様々な状況を把握したうえで，決断をしているということに気付きかけていると考え，終末に「忠民は何を願っていたのだろうか」と生徒に問いかけた手だて④。すると【資料 18】のような意見が出た。下線部からわかるように，岡崎藩や岡崎に暮らす人々のこと，日本全体の平和を願っているという意見であり，忠民が藩主という立場から様々な立場に立って決断をしたことに気付いていることがわかる。このことから，新しい価値観に基づいて忠民の政治的決断には，様々な願いが込められており，その決断には国内外の情勢を見据えたものであると捉えようとしていることがわかる。【資料 19】は，第十時の授業感想である。



【資料 18】第十時の板書

【資料 19】第十時の感想
［生徒Ａ］ 忠民は国内の厳しい財政難，藩の人々の苦しみ，外国の状況を受けて，岡崎藩のために新政府側につくという決断をしたということがわかった。御三家に次ぐ譜代の治める土地だが，幕府に対する思いよりもつらい生活を送る藩の人々に対する思いが大きかった。これからの時代で海外にも負けない強く活気ある笑顔に満ちた国を願っていた。そして岡崎の未来を考えて教育に力を入れていた。これは今を生きる私たちにも影響がある。そういう意味で，忠民の決断には大きな意味があったと思った。今回，本多忠民について詳しく勉強したことで，当時のことや岡崎に未来を見通した決断をした立派な人物がいたということを知ることができた。ほかの岡崎藩の人たちについても追究したい。
［生徒Ｂ］ 単元を通して，忠民という教科書に載っていない人物を調べたことがとても楽しかったです。岡崎のことを大切に思う気持ちが，忠民の決断のもとになっているのだなと思いました。イギリスやアメリカが日本にやってきて，幕府や岡崎藩が苦しい状況になって，勝つか負けるか微妙なときに新政府側につく決断をしたのは，難しい決断だったと思います。脱藩者もいたから決断は大変だったと思います。でも脱藩者の人たちだけでなく，正しい決断なんてわからなかったときに新政府側につくという決断に従った人たちも，勇気がいる決断だったと思います。

【資料 19】下線部生徒Ａの「強く活気のある笑顔に満ちた国を願っていた」という記述がある。そこから，第九時の感想にあった「忠民が守りたかった岡崎のためにもよい決断だった」という考えに，忠民の願う政治の在り方が反映されていることがわかる。このことから，生徒Ａは為政者の思いに気付くことができるようになり，そして太線部の「今を生きる私たちにも影響がある・・・」という意見は，そのもたらす結果が今の自分たちに関わっていると価値づけている。下線部生徒Ｂの「岡崎のことを大切に思う気持ちが・・・」から，為政者の思いに気付くことができたとわかる。そして，太線部の「正しい決断なんて・・・」から，忠民の決断を信じて従った人々の思いを勇気ある決断であったと価値づけている。このことから，生徒Ａ，Ｂともに，新しい価値観に基づいて為政者の政治的決断に関する価値認識を深められた姿であると言える。

７　実践の考察

【仮説１】について

①戊辰戦争における岡崎藩主本多忠民の政治的決断という地域教材を取り上げる

生徒Ａは第六時【資料 12】「国内外，岡崎藩の状況を踏まえると・・・」と記述し，生徒Ｂは第六時【資料 12】「外国が日本よりも優れた技術を・・・」と記述していることから，岡崎藩主本多忠民が，戊辰戦争で新政府側につく決断をした理由という生徒にとって認識のずれが生じる地域教材を提示し，追究することで，幕末期の社会情勢を捉えられた。

②生徒の思考の流れに沿った学習課題を設定し，単元構想を構成する。

第一時，第六時，第七時において，授業の振り返りを活用し，生徒の思考の流れに沿った学習課題を設定したことで，生徒Ａは【資料１】「でも新政府側につく理由としては・・・」第六時【資料 12】「新政府側についた岡崎・・・」【第七時 14】「結局，正解は」と記述し，生徒Ｂ【資料１】「なぜ岡崎藩が・・・」という記述や，第三時【資料６】「岡崎藩の苦しい状況って・・・」からわかるように，追究意欲が高まり，主体的に学びに取り組んでいった

【仮説２】について

③追究したことを全体で共有，議論する場を設定する。

生徒Ａは，第六時【資料 11】において，全体共有によって旧幕府側についた藩の処遇を知り，【資料 12】「戊辰戦争のその後・・・」と記述していることから，全体共有，議論によって多面的・多角的に忠民の政治的決断の意味を捉えるようになり，第八時【資料 17】「忠民が守りたかった・・・」と記述していることから，忠民の決断には意味があり，岡崎の将来を考えた決断であったと結論付けている。これは全体共有によって他者の意見を取り入れたからである。生徒Ｂは第八時【資料 16】において忠民の決断に意味がなかったとする生徒の意見に触れ，決断に意味がなかったと考えた生徒の意見に触れ，【資料 17】「今の私たちだけじゃなくて」と，誰にとって意味があったのかを考えることができている。このことから，生徒Ａ，Ｂだけではたどり着くことのできなかった，新しい価値観に気付くことができた。

④社会的な見方や考え方を働かせるよう教師の出を工夫する。

第七時において【資料 13】を提示したことで，【資料 14】生徒Ａ「結局，正解は？」，生徒Ｂ「でもひとつよかったのは・・・」と考えをゆさぶることができた。また，第八時で教師の「誰にとって意味があったのか」という発問により，【資料 17】生徒Ａ「今の私たち・・・」，生徒Ｂ「今の私たちだけじゃ・・・」と，社会的な見方や考え方を働かせて忠民の決断に意味を考えている。そして第十時に教師の「忠民は何を願っていたのだろうか」によって，【資料 19】の太線部生徒Ａ「今を生きる私たちにも・・・」，生徒Ｂ「正しい決断なんて・・・」のように，新しい価値観に基づいて為政者の政治的決断に関する価値認識を深めた生徒Ａ，Ｂの姿が生まれた。

これらの生徒の変容から，研究の仮説に基づく具体的な手だて①から④は，有効であったと考える。